

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

春季号 [No. 33]

2017年 4月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com

琵琶湖疏水データー 第二疏水を含めると取水口から伏見まで約二〇キロ、南禅寺からの支流を加えると総延長三〇キロになる。通船は最大五〇槽く六〇槽が上下行き交った。日本初の発電所が蹴上に出来て電気が起こされ、電車が塩小路から伏見まで走る。高低差があるため蹴上と墨染にインクラインが設けられた。



びわ湖疏水

いよいよ今年びわ湖疏水の観光通船が開始される予定ですが、改めてこの疏水を見てみました。桜の咲く時期の鹿閑橋（昭和三年竣工・この橋は石橋ですが、欄干に銅製の見事な桜の花びらが意匠されています）から三井寺観音堂への眺めは最高です。観光名所の京都に行ってもこのロケーションに優る桜の名所は無いと思います。

びわ湖と京都を水路で結ぶ構想は、古くは平清盛、太閤秀吉、徳川家康も立てたと云われています。

明治になって東京に遷都され寂れた京都をなんとか立て直したいと京都府知事の北垣氏をはじめ多くの京都人の想いがあったようです。この京都人の想いとは別に、明治六年に設立された工部大学校（現東京大学工学部）の生徒であった、田辺朔朗氏が五年生の卒業実地研究の辞令を受け明治一四年京都に来て、大津、山科、京都を何度も行き来し疏水工事の卒業論文を仕上げたそうです。

この田辺朔朗氏の設計計画と北垣知事等の想いが一つになり、多くの対立意見もあったなかようやく明治一八年工事が開始されました。難工事のすえ最長の長等山トンネルは明治二二年二月二七日貫通しました。そして三月十日に貫通式が行われ、蠟燭の灯りのなか関係者が歩いて通り抜けしました。翌日から三日間は京都市民と滋賀県民は自由に歩いて行き来できたそうです。明治二九年のびわ湖大洪水のときはゲート上部まで水があふれ土嚢を積み上げて京都への洪水を防いだそうで、その後鉄の扉が作られました。

よく展示される古写真を見てもみると関門手前に沢山の船が並んで、米俵と思われる積荷や沢山の人が乗船している姿が見えます。当時は国鉄大津線に乗り三井寺の観音堂をお詣りして疏水下りを楽しんだ観光客がなんと最高時年間一八万人もあったそうです。

「写真提供は、（公社）びわ湖大津観光協会」

「会員・雨森」

やっと大津に出来ました

町家を利用したゲストハウス完成



夜のイメージ ホームページより



漆絵の玄関屏風



吹抜けの三和土には水屋筆筒

大津への外国からの観光客が増え(昨年 2016 年は前年比 74% 増だった)たそうですが、ほとんどは京都観光のために宿泊している人が多く、大津市内で滞在する外国人観光客は少ないのが現状です。こうしたなかで、大津の大きな特徴である空き町家を利用した粋なゲストハウスが誕生しました。

この大津町家の宿『粋世(いなせ)』は、米原の(株)湖北設計さんが長等三丁目にあった元お米屋さんの建物を購入し、昨年 4 月の末 27 日オープンですがおじゃましてほぼ完成状態のお部屋を見せて戴きました。

京都でも町家利用した宿は沢山ありますが、町家の良さをすっかり無くしたものが多く見られます。しかしこの町家のお宿『粋世』が素晴らしいのは、昭和八年に建築された風格ある建物を上手く使い、屋内の調度品に建具すべてそのまま利用されているのです。ガラス戸の建具を見ても最近では見る事の出来ない様々な模様の型ガラスが当時のまま使われ、お部屋毎に違ったガラス建具を見ているだけで楽しめます。照明器具も各部屋昔の電気傘を最大限利用され蛍光灯はありません。

どのお部屋も自然素材で改修され、坪庭、中庭、奥庭と風情が楽しめる大津町家のお宿『粋世』。私はすっかり気に入りました。社員さんは大津百町のまちなかを何度も巡り、飲食店やお風呂屋さんへ行かれたそうで宿泊されたお客さんに案内出来る手配も整えてこられたそうです。 【 会 員 雨 森 】



一階広間にある床の間の見事な細工の建具



二階洋室の粋なデザインの洋風窓



二階一番大きいお部屋の床の間



二階から見た吹抜けの三和土



趣のある電気傘、懐かしい薬箱が色々お部屋に。



洋室入口のガラス戸



凝った意匠の明り取窓



坪庭に面したガラス戸



二階和室の美しい建具

内部、外観とどこも素晴らしく写真が沢山あるのですが、ここではほんの一部を紹介しました。オープンには4月27日ですが、4月20日には一般内覧会(AM10:00~PM3:00)が行われるそうです。目の保養に是非一見をお薦めします。

【写真は編集部が撮影】



二階階段横のガラス戸

大津駅観光案内所で活躍するイタリア女性

大津駅観光案内所 OTSURY

昨年の秋、大津駅に付属する建物が改装され『ピエラ大津』としてオープンしました。1、2階に飲食店や簡易宿泊施設も出来て以前より明るく駅前を訪れる利用者も多くなっているようです。この一階にリニューアルした観光案内所ができました。この『ピエラ大津』の観光案内所ですが、外国人観光客にも対応できるようにとイタリア人女性がスタッフの一人として居られます。

彼女はアンナ・ジュリア・ビファーニさん。アンナさんは日本語・イタリア語・英語を含めなんと6ヶ国語が出来るようで驚きです。このアンナさんにインタビューし、大津に来ての印象をいろいろお聞きしました。

☆大津の観光案内所で仕事をするきっかけは？

昨年は東京でインターンシップをしていました。三ヶ月だけいましたが、日本で長い期間働きたいと思い仕事を探していたところ、友達から観光案内所のプロジェクトの話をきいたのです。

☆観光案内所での仕事を始めての感想を。

最初は難しいと思いました。ヴェネツィア大学で5年間位日本語の勉強をしましたが、自分でも余り上手くないと思っていました。でも勉強を重ねていくなかで“日本に住みたい”と考える様になりました。この案内所での仕事は自分自身のチャレンジになりました。少しずつ仕事も覚えて、大津の生活にも慣れて楽しくなってきました。大津のまちの人や仕事の同僚からいろいろ助けももらっています。みんながやさしくて親切なひとです。このことは一番いい事だと思います。

☆出身はイタリアのどの辺りですか？

イタリアの北の方の町で、エミリアローマニア州でミラノとボローニャの真ん中くらいの“パルマ”というまちです。



☆お仕事を始められ6ヶ月程ですが困ったことは？

私は日本語がまだ苦手なので、ちょっと困っています。時々お客様の質問にお答えするのに時間がかかりますので、早く日本語が上手になりたいです。

☆訪ねて来られる日本の方と外国の方の割合は？

外国の方は日本の方に対して4%位の割合です。300人位来られたら10人位が外国の方です。

☆外国の方はどちらからの方が多くですか？

① 中国・台湾・香港 ② アメリカ・カナダ ③ オーストラリア の順番ですね。

☆案内所での一番多い質問は？

一番多い質問は三井寺についてです。

☆アンナさんが見た大津の魅力はなんですか？

私の一番好きな魅力は、大津百町の歴史。大津百町館に入って見た日本古来の住宅。長等神社の小さくて親密な雰囲気のところなんか魅力的に思いました。

☆いまアンナさんが大津市・滋賀県で行って見たいところ

堅田の方へ行きたいのと、甲賀忍者村を見に行きたいです。





盛況です山本ギター教室



京都で長年ギター教室を開催しておられる山本幸二さんには、2013年秋に「大津百町館」で演奏会をして頂きました。この山本さんは京都の呉服屋さんに勤務されていたのですが、45歳になってギター演奏家に転身し世界の各地で演奏をして来られた異色のギタリストです。

地元京都では、町家で琴とのコラボ演奏会や銭湯コンサートなどいろんなところに呼ばれて演奏活動をされています。

ここ大津百町館の離れでも、昨年の4月から毎週水曜日に教室を開かれています。10時から夕方5時までの間自由に時間を選べるので、生徒さんには都合が良い様です。基本はワンレッスン20分で次の生徒さんが来られるまでは独習OKで時間制限無し。現在は中学生から60代の方まで習いに来られています。自分にやる気があれば有効に活用できるので生徒さんは徐々に増えているそうです。水曜日は百町館のあと浜大津明日都以夜部の部もあるそうです。



昨年末百町館でのクリスマス発表会の先生と生徒

3月7日、中央学区女性会の主催で、びわ湖大津館での山本幸二先生の「ギターコンサート&ランチの会」を開催。「さくら」など日本の親しみやすい曲やギター一曲で有名な「アルハンブラ宮殿の想い出」で酔いしれました。ランチの途中では先生が各テーブルを回ってリクエストに応じて弾いて頂き、最後にはギターに合わせて「琵琶湖周航の歌」を全員で歌い盛り沢山の充実したコンサートになりました。

山本先生のギターの音色はとても滑らかで、テクニックは素晴らしく音浴をしている感覚でした。大津百町館ではギター教室をお持ちで、楽譜が読めなくてもギターに触れたことがなくてもレッスンして頂けるとのこと、私もギターのレッスン始めようかしら？感動が止まらない時間を過ごしました。

中央学区女性会 会員 匿名



百町館の中庭を挟んだ離れで和やかに練習

中央学区女性会で演奏会

この百町館での教室が縁で、中央学区女性会が主催する「ギターコンサート&ランチの会」が3月7日に「びわこ大津館」で開催されたそうです。その日は50名近くの方々が参加され久々の交流の場となり感動のひと時だったと、参加された方お二人からその時の感想が寄せられましたのでここで紹介しました。



譜面を見て真剣に練習

プロのギタリストの演奏を生で聞かさせて頂けると言う事で参加致しました。お堅い演奏会かと思っていましたが、アルハンブラ宮殿の想い出、アストゥリアス、禁じられた遊びや愛の賛歌等々誰もが一度は耳にしたことのある曲を弾いて下さり、何十年か前に観た映画のシーンを想い、越路吹雪さんが歌われた歌詞を口ずさんだりました。もう一つの楽しみ、早春の琵琶湖を眺めながら、フレンチの昼食を戴き旧知の人も初対面の人も和やかに会話が弾みました。食事の後先生が各テーブルを廻られ、演奏して下さり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。最後に全員で「琵琶湖周航の歌」を歌ってお開きになりました。

中央学区女性会 会員 匿名

編集後記

この『瓦版』の発行は年4回なのに毎回何を掲載するかで悩みます。この春季号は今春から疏水の通船事業が始まることから思い付き疏水の桜をトップにしました。

また、たまたま訪問した完成間近の『粹世』を見せて戴いてびっくり感動しました。よくある町家改築・改装ではなく、築85年の大津町家を生かしたお宿、これこそが「大津の町家を考える会」にふさわしい記事だと取材を重ねました。

[K. A]